



平成26年度文部科学省
大学教育再生加速プログラム事業選定
福岡工業大学AL型授業推進プログラム

ACTIVE LEARNING.

アクティブ・
ラーニング

大学での学びを実社会に活かすために。



アクティブ・ラーニング(AL)型授業を全面的に取り入れた就業力育成プログラム

「志向する力」「共働する力」「解決する力」「実践する力」は「実践型人材」に欠かせない4つの力です。就業力育成プログラムでは、この4つの力を育成するために、コミュニケーション力向上を主眼として、アクティブ・ラーニング(AL)型の学修を積極的に取り入れた講義を展開しています。同プログラムの授業では、学生を主役として、学生と担当教員のみならず、学内の関係教職員、先輩学生、企業や地域社会の方々との対話を取り入れ、気づきを大切にしています。他者と一緒に活動することで知識を深め、新たな価値を生み出すプロセスを実感することができ、学生自身が自分の成長や学ぶ面白さを感じることができます。



志向力

「志向する力」は、将来の職業や生き方について自ら考え、目的とする方向を目指して行動していく力です。

入学前には、自分の将来についての作文課題が課され、入学後の個人面談では、提出された作文の内容に基づいたアドバイスが行われます。また、1年次前期の「キャリア形成」(必修、2単位)では、基礎的なスタディ・スキルのほか、目標設定、計画立案、自己管理などの具体的手法を学び、作文と面談を通じて自分の大学生活や卒業後の職業生活への展望を明確なものにできるよう学んでいきます。

共働力

「共働する力」は、共に考えを伝え合い、協力しながら活動する力です。

1年次後期の「コミュニケーション基礎」(必修、2単位)では、グループワークを通じて、論理的思考や基本的な議論・プレゼンテーションの方法を実践的に修得していきます。また、2年次後期の「日本語表現」(選択、2単位)では、大学生活で目的に応じて文章を書くために必要な日本語の基礎知識や書き言葉の表現法を身につけます。

解決力

「解決する力」は、問題を発見し、適切な方法でその解決を図る力です。

2年次、3年次には、各学科における「技術者倫理」およびそれに相当する科目で、ケースメソッドとグループディスカッションの手法を用いた授業を展開。問題発見から解決策の提案までのプロセスを学びます。それと同時に、技術者が社会に対して保持すべき倫理観を身につけ、専門分野における思考力・問題解決力・コミュニケーション力を高めていきます。

実践力

「実践する力」は、学んだ知識を応用し、実際の仕事の中で活用していく力です。

「インターンシップI」(2年次前期)、「インターンシップII」(3年次前期)では、インターンシップを実施し、就業体験(企業において実習・研修を経験すること)を通じて、実際の職業観を高めていきます。また、より高度な実践力を身につけるために他学科で開講されている「特定専門科目」を受講できる制度が設けられています。

就業力育成プログラム

学びの流れ

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
志向する力	キャリア形成							
共働する力		コミュニケーション基礎						
解決する力			技術者倫理					
実践する力			インターンシップI		インターンシップII			
				特定専門科目				

実践型人材に欠かせない力「志向力」「共働力」「解決力」「実践力」を育成するキャリア教育カリキュラム。コミュニケーション力向上を主に、アクティブ・ラーニング(AL)を積極的に取り入れ、講義を展開しています。

人材育成目標

「実践型人材～自律的に考え、行動し、社会で活躍することのできる人材」

本学では、大学での学びを実社会に活かすことのできる「実践型人材」の育成を目指しています。

現在、社会が大学での学びに求めているものは、「主体的な学修」を行う姿勢を身につけ、それによって「生涯学び続ける力」を修得することです。

そのためには、学生自身が将来社会でどのように活動していきたいかをイメージし、その姿が大学での教育とどのように関係しているかを理解すること（「志向する力」）が必要です。また、自ら目標を持って他者と共働し（「共働する力」）、それを実現していく力（「解決する力」）によって学修への意欲を高めることが重要な要素となります。

そこで、初年次のキャリア教育コアカリキュラム（「就業力育成プログラム」）において将来の目標や具体的な活動をイメージすると共に、多様な教養教育科目の中で社会人として必要な知識と視野を広げていきます。また、授業で得た専門知識が社会でどのように活用されているのかを知るため、インターンシップなど実地体験の取組を推進していきます。

また、数多くの科目（授業科目のうち80%）においてアクティブ・ラーニング(AL)型の学修を積極的に取り入れることにより、「主体的な学修の体験」の機会を飛躍的に増加させ「実践する力」を育成します。



アクティブ・ラーニング(AL)とは

本学におけるアクティブ・ラーニング(AL)は、学生の意見表明および振り返りを基本的な要素とする授業・学修形態のことであり、具体的には、グループ学修、グループディスカッション、体験学習、課題解決学修などを取り入れた授業を行います。講義形式の授業だけでなく、教員と学生の双方向性が確保された授業の中で、自分の意見を述べたり、学生同士で積極的にコミュニケーションを行ったりすることにより、授業理解が深まるとともに、実践型人材に欠かせない汎用的スキル(社会で役立つ力)を身につけることができます。



2人以上のグループでの学修

グループ学修の良い点は、「学び合い」ができることです。大学の授業では得た知識を活用し、解決策を考え課題に直面することが多くあります。その際、グループで学ぶことにより、互いに理解できている点、理解できない点を補い合いながら、知識を深めることができます。



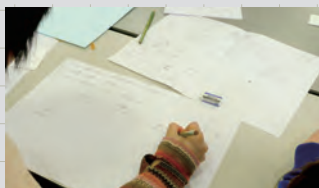
議論や発表など、自らの意見の表明

課題についてディスカッション、プレゼンテーションを行います。ディスカッションでは、自分の意見を伝え、他者の意見を聞き、それを受け入れたり、疑問点を質問したりしながら、新たな結論を導き出す必要があります。また、プレゼンテーションでは、自分の見解をまとめ、相手にわかりやすく伝える工夫を学びます。



授業中のミニツツペーパー(短いレポート)

授業では各回ごとに学ぶ内容についての達成目標が設定され、また学んだ内容についてレポートをまとめて振り返ります。それを教員が確認することで学生の授業に対する理解度や不明点を把握でき、改善点などがあれば次の授業に活かしていきます。



グループでの学びの振り返り

振り返りは知識の定着にとっても重要な作業です。授業の内容についてグループで理解できた点、できなかった点を互いに振り返り共有することで、自分の伸びた点やもっと学修すべきところを明らかにし、その後の授業に活かし取り組むことができます。



学生と教員の双方向性確保

グループ学修や発表、ミニツツペーパーなどの方法を含み、授業の中では学生から教員、教員から学生への質問や声かけなどコミュニケーションを行う場が確保され、教員と学生が共に作りあげる学びが工夫されています。



福岡工業大学の 学びのステップ

4年間の教育課程の中で、教養教育科目・専門教育科目を問わず、多くの授業で、内容や目的に適したアクティブ・ラーニング(AL)実施のための「ツールや、学修方法が」取り入れられ、「授業がわかる、役に立つ」という実感が得られます。



4年間の学びを経て
社会で即戦力となる人材へ



卒業研究・ゼミナール

4年次

4年間の集大成として、自らの専門分野で学んだ専門知識と応用力を活かして卒業研究・ゼミナールに取り組み、社会への一歩につなげていきます。



2・3年次

専門知識を応用する力を磨き、卒業研究のテーマを探索していきます。またインターンシップ(企業における実習・研修)を経験し、職業観を高めるとともに仕事と専門知識の関連性について考える学びを積み重ねていくことで、就職や進学に向けての将来像をイメージしていきます。

インターンシップ I・II

この授業では、インターンシップの実習およびその事前・事後学修を通じて、①企業や社会の現実の姿を理解すること、②就業意識を醸成すること、③自らの課題を把握し今後のキャリアを考えるとともに、大学生活における具体的な目標を確かなものにしていきます。



5~6月 [事前学習]

マナー研修・目標設定

マナー研修では、専門の講師を招いて挨拶や電話の応対など社会人としての基本的なマナーを学びます。また就業実習における目標を設定します。

7~9月 [実習]

企業での実習

実際に企業に入り、企業の一員として、仕事を体験します。アルバイトとは違い、ビジネスの現場や働くことを理解することができます。

10月 [事後学習]

グループでの振り返り学習

3~5名程度のグループを組み、インターンシップでの体験や学びを振り返り共有します。また、報告会に向けて各グループで意見をまとめます。

報告会実施

就業実習での研修内容やそこから得た学び、気づきについて、ポスターセッション方式で発表します。

2年次

学部学科の専門知識を深める科目として実験や実習科目をはじめ、課題解決を目的としたアクティブ・ラーニング(AL)科目(PBL科目や創成型科目など)が本格的に展開されています。

技術者倫理

この授業では、ケースメソッドとグループディスカッションを用いた授業を展開し、問題発見から解決策の提案までのプロセスを学びます。また、技術者が社会に対して保持すべき倫理観を身につけ、専門分野における思考力・問題解決力・コミュニケーション力を高めていきます。



DVD教材などを用い、実際の企業で起こった事故事例をもとに、企業における正負の部分や、技術者が取るべき行動や自律性について、グループでディスカッションを行い、互いに発表します。その際、企業での立場(経営者、技術者など)を変え、考える視点を深めます。
* 学科により授業内容が異なります。

1年次

将来への見通しと、それに繋がる大学生活での具体的な活動イメージを明らかにするとともに、他者と協力しながら学ぶ力を身につけます。また、幅広い教養科目の中から、社会人として必要な知識と視野を広げていきます。専門教育科目においては、導入教育として専門の学びへの動機づけを図るとともに、2年次以降の専門教育で必要な基礎知識と考え方を身につけていきます。

キャリア形成

自己や社会に対する理解を深めながら、自分自身の将来設計を考えていきます。この科目には、いろいろな他者との交流を通して、他者の考え方や生き方に触れたり、体験しながら学んだりする機会がたくさん取り入れられています。



大学での学び

「大学での学び」は、高校までとはどう違うのだろうか。いろいろなゲストスピーカーや仲間と交流しながら、この問いに対する答えを探ります。

自己とキャリア

自分はどんな人間で、何を求めているのだろうか。どんなふうに生きていくのが良いのだろうか。自分自身と向き合うことで、方向性が明確になり、学びへの意欲も高まります。

社会で求められる人材と共働

社会で求められるのはどんな人だろう。仲間と共働しながら業界・企業研究を進め、社会や社会人についての理解を深め、自分が大学で身につけるべき力は何かを考えます。

コミュニケーション基礎

議論の型を用いて高度なコミュニケーション能力の育成を目的としています。相手に伝えるための基礎スキルから議論スキルまで、段階的に学んでいきます。講義に加え、自分で課題に取り組んだり、ペアやグループでの話し合いをしたりと、授業の中で実践的な話し合いスキルを身につけていくことができます。



導入期

あるテーマについて自分の主張を整理し、相手に伝えるための基礎スキルを学修します。ワークシートを用いて自分の考えを組み立てる練習をします。

発展期

他者の主張を聞き、それを評価するスキル、自分の主張を比較検討するスキル、またお互いの発表を聞き、反論をするスキルを養います。

応用期

自分の主張と他者の主張との相違点を明確にして議論するスキル、他者と円滑に意思疎通を行うコミュニケーションスキルを学修します。

大人数講義での グループディスカッション



座学が中心となることの多い100名以上の履修者・大教室の授業で、グループディスカッションの機会を設け、他者との意見交換や発表を行っています。【講義例:「環境管理論」(社会環境学部社会環境学科3年次)】

授業アーカイブを活用した反転授業

「反転授業」では、動画として用意された講義の一部を授業アーカイブシステムで宿題として事前に視聴し、実際の講義ではこの予習で得た知識を応用して問題を解いたり、議論を行ったりします。それにより講義の内容を深く理解することができます。



【講義例:「電子回路I」(工学部電気工学科1年次)】

ホワイトボードを活用した学び合い

ディスカッションの内容をホワイトボードにまとめて発表したり、数学や物理などの講義では、問題をホワイトボードで解きます。その中で解き方を他の受講生に説明したり、教え合い、学び合うことで、「理解の実感」が得られます。



【講義例:「情報解析学」(情報工学部情報システム工学科2年次)】

ポスターセッションで学びを共有



学科専門教育の導入科目において、テーマをポスターにまとめて貼り出し、他のクラスのメンバー、先輩、関係する教職員に説明し、質疑応答を行います。それによってプレゼンテーション能力を養い、また多くの人からアドバイスをもらって、今後の学修の参考にしたりすることができます。【講義例:「システムマネジメント基礎」(情報工学部システムマネジメント学科1年次)】

【全学共通】就業力育成プログラム・コア科目での学び

【学科】専門教育科目での学び

授業をサポートする クラス・サポーター^(CS)

クラス・サポーター (CS) とは、授業がスムーズに行われるように受講生や先生のサポートをする先輩学生です。同じ学部から選ばれ、半期15回を通して1つのクラスを担当します。



CSの育成にあたっては、合宿研修を実施し、「ファシリテーションとは何か」についてグループワークなどを通して学びます。

何事にも積極的に！
一緒に成長していきましょう。

授業中は受講生と目線を合わせ、質問してもらえるような接し方を心がけています。また、自分の1年次を振り返りながらアドバイスを行うなど、自分自身も一緒に成長していきたいと思っています。大学に入って何をやるかが大切です。課題には積極的に取り組み、与えられたチャンスにはぜひチャレンジして、充実したものにしてください！



工学部
知能機械工学科
浅倉 悠斗

キャリア形成・
コミュニケーション
基礎担当

わからないことがあれば
何でも質問してください。

クラス・サポーターとして、一人ひとりに目を配り、クラス全体の雰囲気良くなるように心がけています。1年次の最初の時期は不安もあるでしょうが、先輩からのアドバイスもいただけるので、授業ではグループワークなどに主体的に参加してください。周りの意見を取り入れることで自分の視野も広がります。



情報工学部
情報通信工学科
小野 航平

キャリア形成・
コミュニケーション
基礎担当

Voice 受講生(先輩)の声

実践的な授業で、
具体的な目標が見つかった。

インターンシップ期間での課題解決のために、データを収集し計画を立てて行動することの大切さを学びました。企業や仕事の今まで知らなかったことに触れる良い機会となりました。また報告会等でプレゼンを行うことで実践的な力を身につけられ、自信となり、将来の就職に対する目標ができました。自分を成長させたいという方におすすめの講義です。



工学部
生命環境化学科
木下 昭男

「インターンシップⅡ」受講

積極的に発言することで、
自身を振り返り、成長できます。

授業中に発言したり様々な人の意見を聞く機会が多く、伝え方・聞き方・着眼点・一般知識などを学ぶことができました。日々の授業で、今までの自分を振り返り、強みや弱みを再確認し、改善することで成長につながりました。積極的に参加すればするほど、新しい発見や得るものが多い授業なので、ぜひ積極的に参加してください。



情報工学部
システムマネジメント学科
米田 成美

「コミュニケーション基礎」受講

やりたいことや目標が
見つけられる大切な授業。

グループでパワーポイントを作成して発表したり、自分以外の意見を聞く機会が多く、違った見方・考え方を知る面白さを実感しました。また、自分に足りない力を知り、資格取得など2,3年次に向けての目標設定ができました。やりたいことが見つかっていなくても、この授業を通して将来のことを考えていけるとと思います。



社会環境学部
社会環境学科
近藤 亜美

「キャリア形成」受講



リニューアルされた図書館やCultivation Site(カルティベーションサイト)など、
学生が自由に集い議論やグループワークができる空間を完備。主体的な学びをサポートしています。



Cultivation Site(カルティベーションサイト)

学生が自由に集い、学生間の議論やグループワークを通して自分の考えを深め、形にすることができるスペースです。授業の課題や予習・復習のためなどに集い、グループでの資料作成やグループ討議、プレゼンテーションの練習を行うことができます。



図書館

図書館を新たにリニューアル！一人静かに読書や課題、研究に没頭するスペースだけでなく、アクティブ・ラーニング(AL)を推進する空間(FIT Link)も備えた新しい学びの場が誕生しました。



アクティブ・ラーニング教室

可動式の机や椅子、什器・機器などを利用してPBL(課題解決型学修)やグループ学修を行っています。授業で使用していない時間帯はラーニング・commonsとして使用できます。